

被災者の健康・生活支援に関する総合施策

策
定
理
念

➤ **復興のステージに応じて「心」「体」「絆（コミュニティ）」に係る多様な課題に対応していく。**

復興のステージ

課題が多様化

災害公営住宅の建設が進むにつれ、仮設住宅入居者の災害公営住宅への移転が本格化。

災害公営住宅に移られた方々が、新たな地で生活を始めていく際のコミュニティの形成が必要。
住宅整備についてコミュニティに配慮した工夫も必要。

仮設住宅で長期避難を続けられる方々については、心身のケアが一層重要。
仮設住宅の集約に伴うコミュニティの再構築も課題。

主要課題

現場の課題に対応

見守り活動の強化 相談員、復興支援員を充実・確保。NPOやボランティア、CSR活動など多様な主体による支援の連携体制を構築

住居とコミュニティ構築 災害公営住宅や仮設住宅それぞれの課題に対応したコミュニティ構築を支援

被災者の「心」の復興 避難が長期化する被災者に対して心のケアや生きがいづくりが必要。

5つの柱による施策

I 支援体制の充実

- 相談員・復興支援員の充実・確保
- コーディネート機能の強化
- NPO等の活動支援・企業CSRの促進等



II 住居とコミュニティに関する課題への対応

- 仮設住宅の空き住戸の有効活用
- コミュニティに配慮した災害公営住宅整備



III 「心」の復興

- 心のケアセンター、寄り添いホットライン、アルコール対策など種々の心のケア施策
- 地域活性化活動への参画等の生きがいづくり



IV 子どもに対する支援

- 被災した子どもの健康・生活対策等総合支援事業の着実な推進
- 教育サイドからのアプローチ



V 情報基盤の共有

- 被災者データのプラットフォーム化の促進
- ニュースレターの発刊

